

〈家庭〉

課題を解決する能力を育成する保育指導の工夫 —多様な子育て場面に対応できるロールプレイングを通して—

沖縄県立球陽高等学校教諭 池 原 珠 子

I テーマ設定の理由

近年、急速に進む少子化、核家族化、共働きの増加、地域コミュニティの希薄化などにより、人々のライフスタイルや生活意識は多様化し、子育てに関するそれぞれの抱える問題は様々ではない。少子社会で育った現在の親にとって幼い時から子育ての手伝いや身近で子育てを観察する機会が乏しく、我が子を出産して初めて乳児に接することや、核家族化により子育てを支える者も身近にいない。このような状況から、子育ての悩みや不安を抱えたまま親が孤立し、乳幼児への接し方が分からず児童虐待へと繋がってしまうなど、家庭教育が困難な現状がある。国立教育政策研究所の調査結果(平成 13 年)で「家庭教育力の低下」の実態をあげ、文部科学省は、今後の家庭教育支援の推進方策について平成 28 年度に検討委員会を立ち上げ具体策が審議されている。子どもが親から受ける愛情のかたちは、どのような家庭環境や家族構成においても違いはなく文科省は「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」として乳幼児期には「十分な自己の発揮と他者の受容による自己肯定感の獲得」が必要であると示されている。子育ての第一義的責任は親にあり家庭内で親が子どもとのかかわり方を考えることが重要である。

高等学校学習指導要領解説家庭編(平成 22 年 5 月)の保育分野では、「乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生み育てることの意義を考えさせる」「乳幼児期は人間の発達段階において重要な時期であり、最も身近な存在である親や家族、家庭生活が果たす役割について認識させる」と示され、高等学校家庭科教育においては、将来を見据えた保育指導の取り組みが必要であると考えられる。

本校の生徒は、子育てする親の 4 つの態度(保護的・放任的・拒否的・支配的態度の事例)についての事前アンケート調査結果から良識的判断ができることが分かった。しかし、乳幼児が身近にいない生徒が半数以上もいることから、日頃から子育て場面を目にする機会が少ないことも確認できた。乳幼児期の子育てを学習する上で、日々の子育てから乳幼児のかかわり方を客観的思考だけで理解することは難しい。そのため、乳幼児の気持ちを考えることができる学習内容の工夫が必要であると考えられる。乳幼児期の発達の特徴やその時期の親のかかわり方について、基本的な知識を十分に習得し、それを活用しながら生徒自ら課題を解決していけるような取り組みを工夫することによって、子育ての課題をイメージしやすく課題を解決する能力を育成できると考えた。

本研究では、課題のある子育て場面を通して、乳幼児期の発達段階に応じた親のかかわり方について考え、グループ協議で意見を共有し更にロールプレイングで、役である自分の行動の意味や感情、相手の思いや家族のかかわりについて、自発性や創造性を発揮できるような学習内容の工夫を行い、課題を解決する能力を育成できると考えこのテーマを設定した。

〈研究仮説〉

乳幼児期の発達段階に応じた親のかかわり方について、グループ協議やロールプレイングを通して、多様な子育て場面に対応することで、課題を解決する能力が育成できると考えられる。

II 研究内容

1 実態調査

(1) 目的

- ① 保育分野について興味・関心や知識・理解の生徒の実態を把握する。
- ② 授業設計や研究仮説を検証する上での基礎資料とする。

(2) 対象及び実施時期

- ① 事前調査 平成 29 年 1 月 10 日(火) 沖縄県立球陽高等学校 2 年 4 組(41 名)
- ② 事後調査 平成 29 年 1 月 24 日(火) 沖縄県立球陽高等学校 2 年 4 組(41 名)

(3) 結果と考察

① 家庭科全科目と保育分野について

家庭科の内容について 69%と半数以上の生徒が「家庭科科目に興味がある」と答え(図1)、66%の生徒が「保育分野に興味がある」と答えている(図2)。一方、「まわりに乳児がいない」が54%と半数以上が回答した(図3)。乳幼児に接する経験が少なく乳幼児の保育のイメージのない生徒の指導に配慮が必要だといえる。しかし、「乳幼児と接する機会があったらどう接するか」には81%の生徒が関わりを持とうとしていることから、まわりに乳幼児がいない状況でも乳幼児と関わりを持とうとしており、乳幼児への興味・関心の高さが伺える。(図4)

子育て場面で対応方法を判断するため「課題のある親の4つの態度(保護的・放任的・拒否的・支配的態度の事例)の対話文」を読んで生徒の感想から「子どもともっと話し合いをするべきだ」「時には厳しさも必要である」など、9割が子育てに関して良識的判断が出来ていることが分かった。

また、子育てのイメージは「大変そう」「手がかかる」「夜泣き眠れない」「言うことを聞かず大変そう」等、アンケートで8割の生徒が、子育てについて「苦」のイメージを持っている。生徒が持つ「苦」のイメージは、子どもの発達に合わせた親としてのかかわり方が分からない事に対する負担感から起因しているものと考えられ「苦」が子育て場面の中での課題であることを理解させ、課題を解決できる保育学習の工夫が必要である。

2 仮説検証の手立て

(1) 検証の観点

- ① 多様な子育て場面から課題解決に向けたグループ協議が出来たか。
- ② ロールプレイングを通して、多様な親のかかわり方について理解を深め問題を解決する能力が育成できたか。

(2) 検証の方法

- ① 記述・発表内容から生徒の理解度を分析。
- ② 事前・事後アンケートで意識の変容を分析。
生徒の行動を観察。

3 理論研究

(1) 情緒の分化について

情緒とは欲求が満たされたり妨げられたりしたときに起こるさまざまな感情のことであり、情緒の出発は新生児の興奮に原点がある。情緒の分化は感情が単一から複雑化していくこととブリッジズ(1932)は提唱している。例えば、苦痛という不快が回避されなければ怒りが分化し、怒りが回避されない場合は嫌悪(嫌悪が分化するというように不快が連鎖する。逆に、不快が満たされた時には快が分化する。これらは、乳幼児の発達段階において複雑になり不快は防衛本能とし

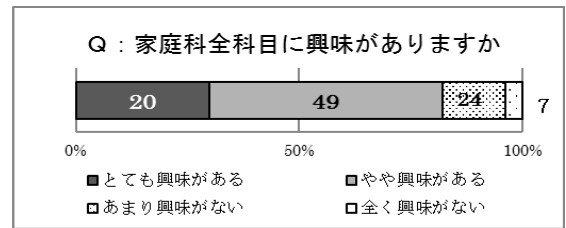


図1 家庭科全般について

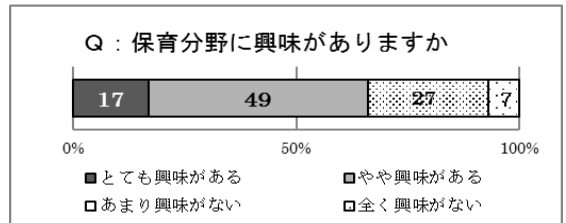


図2 保育分野の領域について

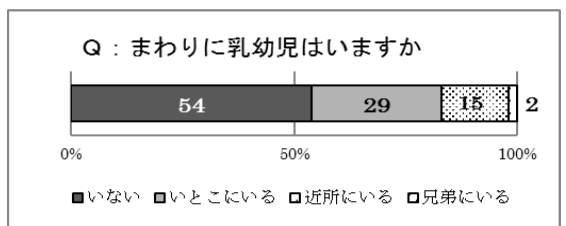


図3 乳幼児のイメージについて

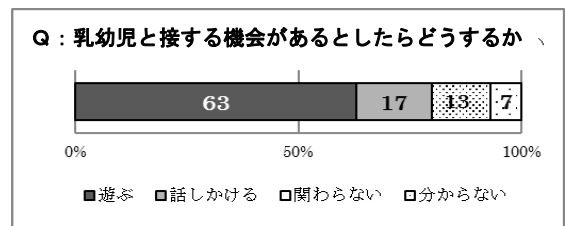


図4 乳幼児への興味・関心について

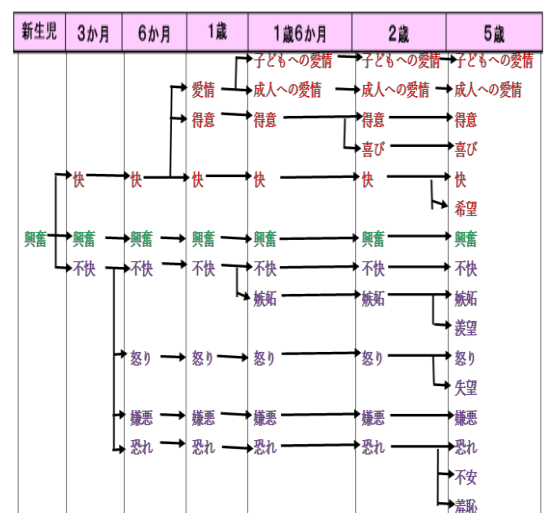


図5 情緒の分化(ブリッジズ 1932)

て備わり、満たされることで和らげられ、外界に対して守られている・受けとめられているという安心感・帰属感が築かれ、更に信頼感から「得意」な感情を表現し「愛情」という感覚が育まれていく。このことから、乳幼児期の快の分化を理解し、満たされることで得られる快の経験を増やしていくことが重要で、自己肯定感の土台となる保育を担う親には大きな役割が求め

られる。今回の研究では、情緒の複雑な分化をブリッジスが提唱した理論を基に、知識の定義を図り自己肯定感を高めることやロールプレイング学習に関連させる(図5)。

(2) 自己肯定感の獲得について

文部科学省の「子どもの徳育の充実に向けた在り方について(報告)」では、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題として「子どもの発達段階に応じた支援の必要性」、「家族や地域社会の在り方が変化する中で、不安や悩みを抱える保護者の増加」「保護者の養育力の低下や児童虐待の増加」なども指摘されている。これらを踏まえて、乳幼児期における子どもの発達において、「十分な自己の発揮と他者の受容による自己肯定感の獲得」をあげていることから、子どもの発達段階に応じて親の対応の変化が必要であり、子育ての「苦」のイメージを子育て場面の課題として促えさせる。

(3) 乳幼児期の発達の特徴について

文部科学省の「子どもの道徳に関する懇談会(第5回)配布資料(平成21年)」によると、「各発達段階における子どもの成育をめぐる課題」について、乳児期・幼児前期(0～2歳頃)の発達上の特性について自分を守り、自分に対し応答的にかかわる特定の大人(多くの場合、母親)との間に、情緒的な絆(愛着)を形成する。そこで育まれる安心感や信頼感を基にして、身近な人や環境に対する興味や関心が芽生え、人間関係を広げると同時に外部への探索行動を行う。また、表象機能の発達により、自分が行おうとすることをあらかじめイメージできるようになり、自分の思いどおりにしようとして、親等に止められるなど、「してよいこと」・「してはならないこと」をめぐる親等との間に綱引きが始まる。このやりとりを通して、「大人の言うことがわかるようになり、自分の意志を大人に伝えたいという欲求が高まる。さらに、発声が明瞭になり、語彙も増加していき、自分の意志や欲求を言葉で表出できるようになる。」「身体的技能の発達とともに、食事、衣服の着脱など身の回りのことを自分でしようとするようになる。」としている。

幼児後期(3～6歳頃)の発達上の特性については、「食事、排泄、衣服の着脱など、自立できるようになるとともに、食事、睡眠等の生活リズムが定着する。」「生活の繰り返しの中で、身体感覚を伴う直接的な体験や、具体的な事物に関連させながら、世界に対する認知を広げていく。」「幼児期の特徴として、他人が自分とは異なる見方・感じ方・考え方をすることを理解できない自己中心性があるが、一方で、他者の存在・視点にも次第に気付き始める。」「遊びを中心とした友達とのかわりあいを通じて、道徳性や社会性の原型といえるものを獲得していく。」としている。これらの発達の特徴を基に発達段階に応じた多様な子育て場面での親のかかわり方の変化について理解させ、望ましい対応方法について考えさせる。

(4) 親のかかわり方について

高等学校家庭基礎 第一学習社 2章壮年期 2子どもの生活と親の役割(図22)子どもの発達と親の役割において「子どもが発達するにつれて、親のかかわり方も変化していく。まだ、十分に話ができない乳幼児期には親のほうから子どもの心に寄りそい、ことばにならない子どもの思いを受けとめて、ともに心情を分かち合うことが重要であり、成長した子どもに対しては、親は子どもの話に耳をかたむけて、しっかりと聞く姿勢が求められる。」(図6)と示されていることから全面的な受容からしつけや社会性獲得へ向けた親のかかわり方の多様性を促す。

期(年齢)	親のかかわり方	親の役割
乳児期 (0～1)	かわいが	受容する 共感する
幼児期 (前期) (1～3)	しつける	行動見本を示す 善悪の判断を教える
幼児期 (後期) (3～6)	仲間遊び をさせる	安全基地として 受けいれる ともに楽しむ

図6 子どもの発達と親のかかわり方の変化

(5) ロールプレイング(役割演技)について

ロールプレイングのねらいとして、「合意形成や他者受容などの能力を高める」ことや、「与えられた役柄を演じ、話し合うためには、その役柄や扱っているテーマについての知識や想像力、情報が必要だ。また、話し合いを通して課題が明確になってくれば、(中略)その課題について理解を一層深めることができる。」ことを示している。また、ロールプレイングは、参加型学習法の中の一つ

とされとし、参加型学習の多様な手法は、「知識や経験、個性や能力を引き出す」とし学習者が、単に受け手や聞き手としてではなく、その学習過程に自主的に協力的に参加することをめざす学習方法であり、発表や対話を通して、参加型学習においては、学習者一人ひとりがそれぞれの異なる

験・知識・意見などをもっていることを尊重し、それを引き出し、対話を生み出し、相互の学び合いを促進する役割を持っていると開発教育協会は示している。そのロールプレイングを取り入れ発表させることで多様な子育て場面に対応する能力の育成を図りたい。

4 素材研究

(1) 基礎知識定着のワークシート(図7)

- ① 乳幼児期は、情緒の分化が著しく言語の発達は未熟なため、自分の気持ちを伝えることができないが、この時期、保育者から受ける行為が情緒の発達に大きく影響するため、乳幼児期の親のかかわり方が重要であることから「ブリッジスの情緒の分化」を基に理解を促す。
- ② 乳幼児期の親のかかわり方が、自己肯定感の獲得に影響を及ぼし、自己肯定感を育てるには、子どもが成長するうえで必要なしつけやルールを身に付けたり、勉強やスポーツをする中で前向きな気持ちで取り組める等、困難に立ち向かい生きていく土台となる。その意味をイメージしやすい図を用いた。
- ③ 教科書に示された発達段階の親のかかわり方の図を示し乳幼児期は、「かわいがる」と受容する割合が多く幼児期は受容よりもしつけの割合が多くなるなど親が子どもの発達に応じたかかわり方を割合で示されている。そこで、具体的なかかわり方を考えさせる。
- ④ 自己肯定感を育てる方法を具体的に考えまとめる。
- ⑤ 乳幼児期の情緒の発達について、発達段階ごとに区分し親のかかわり方の具体例を挙げて理解しやすいよう記入欄を横並びにしまとめ整理させる。また、内容を考えて理解しやすいようにスライドで拡大提示した(図8・図9)。

(2) 各発達段階による多様な子育て場面の提示

乳児期(生後4ヵ月)、幼児前期(2歳児)、幼児後期(4歳児)と(6歳児)、兄弟の兄が構って欲しい場面、兄弟喧嘩で兄に厳しい場面の課題、多様な子育て場面を6つ発達段階に応じて提示した。

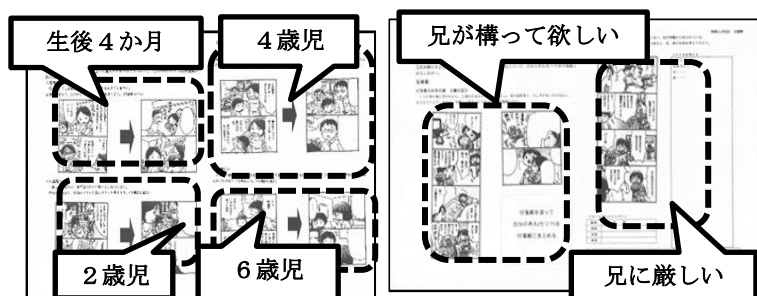


図10 多様な子育て場面ワークシート

出版元: 1万年堂出版 子育てパピーアドバイス

(3) 課題のある子育て場面を考える。

例えば、乳児期(生後4ヵ月)の子育て場面(図10)では、夫婦の対話を2コマ漫画で提示し、課題となる子育て場面を左側へ基礎知識を活かした子育ての対応について右側の吹き出し部分に課題解

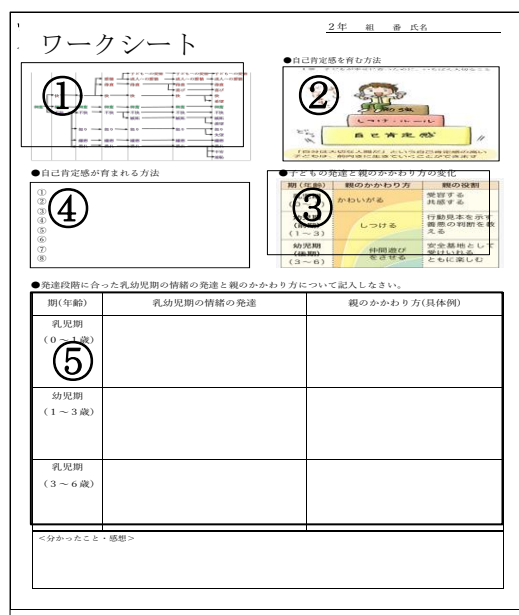


図7 基礎知識の定着ワークシート

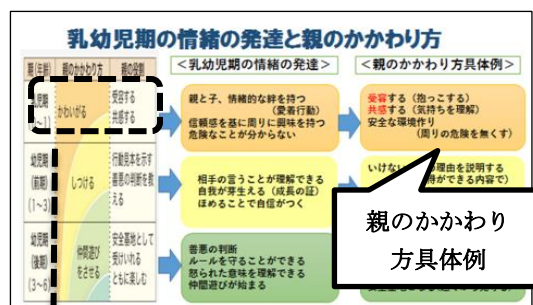


図8 親のかかわり方の具体例(スライド提示用)

期(年齢)	親のかかわり方	親の役割
乳児期(0～1)	かわいがる	受容する 共感する
幼児期(前期)(1～3)	しつける	行動見本を示す 善悪の判断を教える

図9 乳児期の親のかかわり方の拡大図

決した会話を記入させ考えさせる。以下の発達段階の子育て場面においても、同様に課題となる子育て場面の内容から基礎知識を活かした子育ての対応について、課題解決に向けた会話を考えさせることとした。考えるための基となる、基礎知識の定着ワークシートを活用し、発達段階の親のかかわり方を提示された子育て場面の課題とはなにかを見つけ、乳幼児期の情緒の発達を参考にしながら、セリフを考える（図 11）。

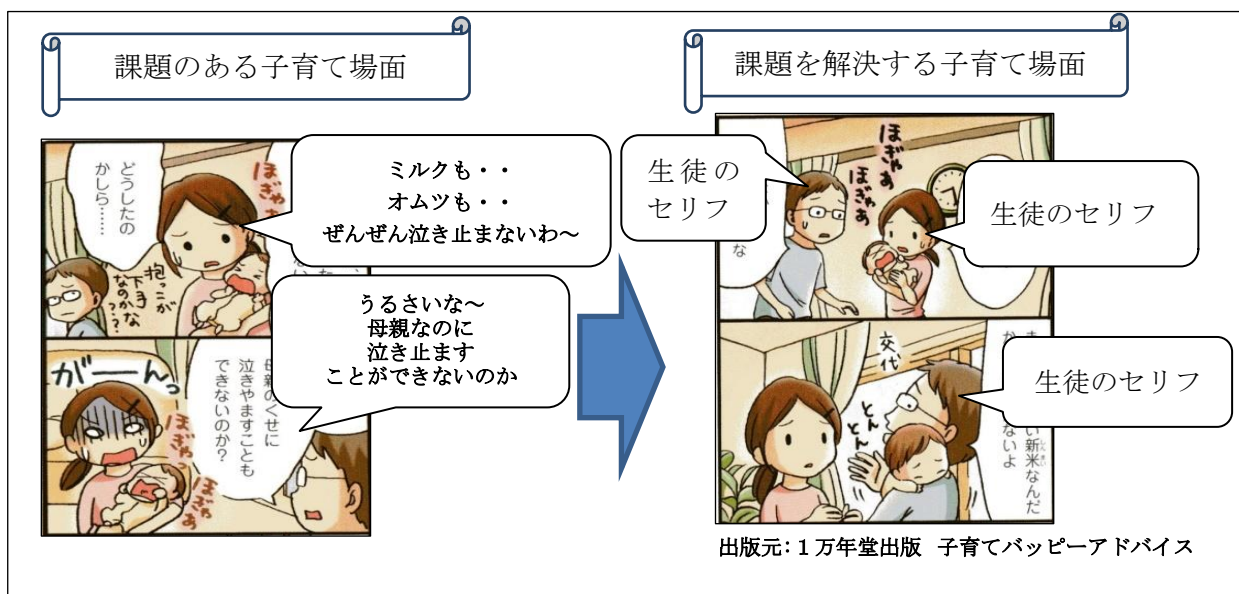


図 11 課題の子育て場面から基礎知識を活かした子育て場面を考える教材（漫画）

(4) 付箋紙を使った他者との意見共有

付箋紙に自分の意見を記入し、他者の意見を共有しやすいよう「グループのまとめ用紙」を活用し 4 つの発達段階の意見共有を行う（図 12・図 13）。応用して、兄弟喧嘩場面のシナリオをグループで作成し、「課題のある子育て場面」を読んで、基礎知識を基に「課題を解決する場面」を考える。



図 12 グループまとめ用紙

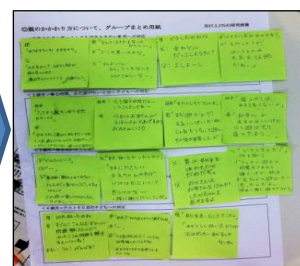


図 13 まとめた付箋紙

Ⅲ 指導の実際

1 題材名 「親のかかわり方」

2 題材設定の理由

(1) 題材観

本単元は、高等学校学習指導要領の内容(1)(イ)「乳児の発達と保育」においては、「乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生み育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの発達のために親や家族及び、地域や社会の果たす役割について認識させる」ことをねらいとしている。また、乳幼児期に親のかかわり方で育まれる「自己肯定感」は、親の言葉ひとつで育まれ、この時期に、自己肯定感の土台をしっかりと作ってあげることが親の役割であることを多様な子育て場面から子どもの発達と親のかかわり方の変化を理解させ保育の課題を解決する能力を育成するのに適した題材である。

(2) 生徒観

本校の現状として進学校のため、家庭基礎 2 単位で、授業時数が少ない中、家庭科や保育分野に興味があると答えた生徒が 8 割と高く対象となる生徒は、子育ての親の態度について、事前アンケート調査結果から良識的判断ができることが分かったが、身近に乳幼児が少なく子育て場面に触れる機会が少ない状況であることから子育てに関する対応の方法について、自分ごととして体験させることが課題である。

(3) 指導観

本題材では、日々の多様な子育て場面から、発達段階に応じた親のかかわり方について考え、個々の子育ての気持ちの理解、言葉かけ、親としての在り方を理解させたい。また、グループ活動や全体発表により、他者の意見を聞き将来、親として対応できる能力をつけさせたい。

3 題材の指導目標

乳幼児期の発達にとって最も重要な課題である、人に対する基本的な信頼感の形成と子どもの発達とともに親のかかわり方も変化することについて理解する。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・乳幼児の心身の発達の特徴に関心をもち、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどうかかわったらよいかなど、多様な子育て問題について具体的に考えようとしている。	・乳幼児期に育つ情緒の発達について理解し、発達段階に応じた親のかかわり方についての重要性を理解し、多様な子育て場面において、課題解決に向けた取り組みができ、自分の考えをまとめることができる。	・多様な子育て場面から子どもに対する親の働きかけ方や態度について子育て事例からロールプレイングを通して自分ごととして捉え課題解決へ取り組むことができる。	・乳幼児期は人間の発達段階において最も重要な時期であり身近な親のかかわり方の必要性を考えさせる。

5 題材の指導計画と評価計画（全6時間）

◎指導に生かすとともに総括に用いる評価 ○指導に生かす評価

時間	小題材	学習のねらい	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
				関	思	技	知		
1	次世代を育てるということ	・次世代の子どもたちを育てることの責任を自覚させる。 ・妊娠前から男女ともに心身の健康管理につとめることの重要性を理解する。	・新しい命は、次世代を担うことと妊娠の成立と命への責任を理解する。 ・将来、親になるための心身の健康管理の必要性について考える。		○		◎	子どもを生み育てることの意味と近い将来親になるための自覚を持ち、男女共に心身の健康管理の必要性を理解できたか。	ワークシート
2	胎児は母体とともに	・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を考えさせる。 ・母体の健康管理の重要性と生命の尊さへの認識を深めさせる。	・妊娠期間40週の胎児の発育の状態と母体の健康管理が胎児の発育に及ぼす影響を学ぶ。 ・母子から胎児に及ぼす健康上の影響について理解する。	○			◎	妊娠期間中の胎児の発育過程を理解し母体の健康状態が発育に影響することと、母子保健手帳の内容と妊産婦に対する支援が法律で定められていることが理解できたか。	ワークシート
3	子どものからだの発達	・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎を作る重要な時期であることを理解する。 ・乳幼児期の特徴を知り、発達には個人差があることを理解する。	・子どもの発達区分として新生児期、乳児期、幼児期、児童期があり、その特徴を学ぶ。 ・運動機能の発達には個人差があり方向性と順序の存在を理解する。	○			◎	乳幼児期の発達の特徴を知り、各発達に応じた育児の方法と、運動機能には個人差があることを理解し、発達には方向性と順序があることを理解できたか。	ワークシート
	子どもの心の発達	・情緒や言語の発達についても個人差があることを理解させる。 ・乳幼児期は親とのかかわりによる「愛着」の形成が重要であり、子どもが欲求不満時の親の適切な対応を学ばせる。	・認知の発達、情緒の発達言語の発達内容を理解する。 ・子どもへの受容や第一反抗期、発達段階に合った親のかかわり方はこの時期には最も重要であることを理解する。		◎		○	・幼児の認知の仕方は、大人とは違った特徴をもっていることに気づく。 ・子どもの心の発達についてまとめ、心の発達を支えるためのかかわり方について考える。	ワークシート 発表
4 (本時)	親と子ともに育ちあう関係	・乳幼児期の発達について最も重要な課題である人に対する信頼感の形成について理解する。 ・子育ての第一義的責任は親にあることと親の対応が子どもに与える影響の重要性を理解する。	・人に対する信頼感の形成は親が子どもへの受容を理解する。 ・子どもの発達段階に応じた親のかかわり方について適切に判断し対応する態度を学ぶ。		○		◎	乳幼児期の発達と・子育ての課題を自分ごととして捉え問題を解決する能力を育成することができたか。	行動観察 発表
5	子どもの生活	・暮らしの中で基本的な生活習慣の形成、社会性の習得について理解する。	・子どもの基本的な生活習慣および社会的な生活習慣について理解し考える。		○			食生活・衣生活、安全の側面、健康について、理解することができたか。	ワークシート
	子どもの遊びと発達	・子どもは遊びを中心に展開して、遊びを中心に社会性の習得の意義があることを理解する。	・遊びにはさまざまな形態があることを知り児童文化財が子どもに及ぼす影響を理解し考える。		○			子どもの発達と遊びの関連性をまとめ、子どもの発達とともに遊びも変化していくことを理解できたか。	ワークシート
6	子育て支援と地域の交流	・少子社会のもとで子育て支援について考えよりよい保育環境について理解する。	・安心して子どもを生み育てることができる環境をつくるため子育て支援が行われていることを知る。		○		○	子ども・子育て支援新制度、子育てネットワークの活用をどう行うか考えることができたか。	ワークシート 発表
	子どもの人権と福祉	・子どもの権利条約にもとづき、子どもの人権や福祉について理解する。	・児童虐待の現状と児童虐待防止法について知る。	◎				児童虐待の現状を理解し、児童虐待の背景と未然防止策方略について考えることができたか。	ワークシート

6 本時の指導展開(第4時/全6時間)

(1) 小題材名 「親のかかわり方」

(2) 指導目標

多様な子育て場面において、課題を自分ごととして捉え、親のかかわり方に関する基礎知識を基に自分の考えをまとめ、グループ活動と全体の発表（ロールプレイング）から、他者の意見を共有し、自己の意見と比較することで、思考が深まり発達段階に応じた親のかかわり方について、課題を解決する能力を育成する。

(3) 本時の評価規準

【評価の観点】 評価規準	判定の基準			評価 方法
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 支援の具体的方法	
【思考・判断・表現】 多様な子育て場面で子どもの発達段階に応じた親のかかわり方を考えている。	子育ての課題解決に向けて取り組み、多様な子育て場面に触れ、子どもの発達段階に応じた親のかかわり方について他者の意見を共有し理解を深め表現している。	多様な子育て場面において子どもの発達段階に応じ、基礎知識に基づいた親のかかわり方について具体的に考え表現している。	子育て問題を挙げさせ、他者の意見から親のかかわり方を再度説明する。	行動観察 発表 ワークシートの記述 内容
【技能】 多様な子育て場面での親のかかわり方をまとめグループ活動を通して問題解決に向けた、取り組みをしている。	子育ての課題を自分ごととして捉え問題解決に向けて取り組み、多様な子育て場面から親のかかわり方としての態度について理解を深めている。	多様な子育て場面から親のかかわり方をまとめ問題解決に向けて取り組んでいる。	多様な子育て場面の事例からグループ活動を通して親のかかわり方を考えさせる。	行動観察 発表 ワークシートの記述 内容

(4) 準備する教材・教具

PC、プロジェクター、ワークシート、手元提示装置（提示用写真）、付箋紙、ネーム札、まとめ記入用紙、沐浴人形、黒板掲示用（各発達段階指示シート）、

(5) 本時の展開

展開 (分)	生徒の活動	教師の活動・支援	形態	準備・ 備考	評価
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。 「子どもの情緒の発達と親のかかわり方の変化」について再確認する。 2 本時の学習内容と学習目標を確認する。 本時の目標：乳幼児期の発達段階に合わせた親のかかわり方を理解する。 3 ワークシートを見ながら、作業の手順を確認する。 親のかかわり方のポイントを確認する。	1 前時の学習を振り返る。 子どもの発達と親のかかわり方の変化のスライドを提示し学習を振り返る。 2 本時の学習内容と学習目標の説明。 3 多様な子育て場面の事例を提示する。 親のかかわり方のポイントについて黒板へ各発達段階指示シートを貼って説明する。	一斉	PC プロジェクター ワークシート	意欲的に取り組む姿勢があるか 【思判表】
展開 40分	4 多様な子育て場面のセリフを考える。 ●乳児期(4か月)の子育て場面について ①自己の意見を付箋紙に記入する。 ②「グループまとめ用紙」に付箋紙を貼る。 ③グループ内で意見を共有して良い意見を選ぶ。(配役を各グループで決める) ④選ばれたグループの意見を全体で発表。 ●幼児前期(2歳児)の子育て場面について 上記と同様①から④の活動を行う。 ●幼児後期(4歳児)の子育て場面について 上記と同様①から④の活動を行う。 ●幼児後期(6歳児)の子育て場面について 上記と同様①から④の活動を行う。	4 多様な子育て場面のセリフの指示。 ●乳児期(4か月)の子育て場面について ①イラスト(課題例の吹き出し付き)をスライドに映し出し考えさせ2分間で自己の意見を付箋紙に記入するよう指示。(時間を計る) ②「グループまとめ用紙」に付箋を貼るよう指示。 ①グループ内でセリフの共有を行い良いセリフの選出を1分間で行うよう指示。 机間巡視を行い工夫されたセリフが書いていくグループを選出し発表の指示。 ④選ばれたグループは前に出て発表するよう指示。(2グループ発表、合計約2分間) ●幼児前期(2歳児)の子育て場面について 上記と同様①から④を指示。 ●幼児後期(4歳児)の子育て場面について 上記と同様①から④を指示。	個人 グループ 全体 発表 グループ 全体 発表	タイマー ワークシート スライド タイマー ワークシート スライド	グループ学習に積極的に参加しているか。 【思判表】 【技】 他のグループの発

	5 多様な子育て場面のシナリオを考える。 ●兄弟喧嘩で兄が叱られる場面について ①シナリオをグループで考える。 ②配役を決める。 ③全体発表（ロールプレイング）行う。 ④聞き手は、発表者のシナリオを聴いて他者の課題解決を共有する。 6 子育ての「苦」の部分について考える。 子育ての苦の部分に直面した時の対応をスライドのイラストを見ながら理解する。	●幼児後期(6歳児)の子育て場面について 上記と同様①から④を指示。 5 多様な子育て場面のシナリオ作成を指示。 ●兄弟喧嘩で兄が叱られる場面について ①イラスト(課題例の吹き出し付き)をスライドに映し出し考えさせグループでシナリオ作成を7分間で行うよう指示。 机間巡視し、工夫されたシナリオができていたグループを選出して発表の指示。 3グループの発表(合計5分間) 6 子育ての「苦」の部分の対応方法について子育ての苦の部分に直面した時の対応方法についてイラストを提示し説明。	全体		表の良い部分を学び取ったか。 【思判表】 【技】
まとめ 5分	7 多様な子育て問題から、課題解決に向けた他者の意見を共有し自分が思う親のかわり方について振り返る。	7 本時の内容を振り返り、ワークシートの感想欄へ記入するよう指示。	個人	ワークシート各自意見感想	親のかわり方を理解できたか 【思判表】

IV 仮説の検証

(1) 課題解決に向けた意見の共有

① 多様な子育て場面に対応し課題解決に向けた記述内容の共有ができたか。

「課題のある子育て場面」をもとに個人で課題を考えさせ、その後同様な発達段階における、課題への対応について記述させ、

その記述をA、B、Cに分類した。Aは「基礎知識・課題解決」+「工夫した対応」、Bは「基礎知識・課題解決」のみ、Cは「基礎知識

表1 記述内容の分類

A:「基礎知識・課題解決」+「工夫した対応」	39%
B:「基礎知識・課題解決」	51%
C:「基礎知識・課題解決」を取り入れていない内容	10%

識・課題解決」を取り入れていない内容とし、各発達段階での記述内容をまとめたところ、課題解決に至っているA、Bの生徒は併せて90%であった(表1)。

乳児期(生後4か月)の子育て場面におけるAの記述では、「子どもは泣くことが仕事だからね!」が基礎知識と「しばらく自分が見ているから、ゆっくりしていいよ。心配しないで!」と妻を気遣う工夫した対応とした。Bは、「泣いていることは、元気な証拠だよ!」と発達発達のみ触れた対応とする(表2)。

表2 記述内容の分類

A「基本知識・課題解決」+「工夫した対応」
「子どもは泣くことが仕事だからね!」⇒(子どもの発達段階に触れた対応)
「しばらく自分が見ているから、ゆっくりしていいよ。心配しないで!」⇒(妻を気遣う工夫した対応)
B「基本知識を取り入れた記述内容」
「泣いていることはげんきな証拠だよ!」⇒(発達段階のみ触れた対応)

表3 Aの「基礎知識」+工夫された記述内容

<2歳児子育て場面のセリフ>

- ・この時期がやってきたわね!5人育ててきた私に任せなさい。(母:何も言わずベテラン母に任せてみる。)
- ・今はそうゆう時期だから、怒るんじゃなくて優しく受け止めることが大切なんじゃないのかな!
- ・反抗期だから仕方ないのかな~!「どうしたの」と優しく言葉をかけて受け入れる。
- ・まだ遊びたいよね~遊ぶの楽しいもんね~でももう寝る時間だよ。たくさん寝ないと、明日たくさん遊べないよ!
- ・今日はお母さんが絵本を読んであげるからお布団へ行こう~!

<4歳児の子育て場面のセリフ>

- ・いつも妹に優しいお兄ちゃんが怒るなんて、どうしたんだい。
- 邪魔されたいやだよ!でも叩くことはいけないよ!
- ・確かに遊びの邪魔されたいやだよ!
- もしかしたら、妹はお兄ちゃんと遊びたかったかもしれないよ!話しに行こう!

<6歳児の子育て場面のセリフ>

- ・60点取ったんだね!すごい!こんな難しい問題解けたんだ~次はこの問題も解けるようになるといいね!
- ・おお~60点~!どこが分からなかったのかな?教えて!一緒に解いてみよう~・・・解けたじゃ~ん!

② 記述内容のグループ別での分析

発達段階に応じた親のかかわり方について、生徒が考えたセリフをグループごとに表にすると以下の通りとなった（表4）。

㊦・㊧グループは全てAと判断される内容であった。

㊨、㊩が存在してる枠は㊨、㊩を共有し、Bは㊨に引き上げられCは㊩に引き上げられ、課題解決に至る内容の共有ができてる。生徒の感想からも「他の人のセリフは、自分が思いつかないものがあって、勉強になった。」「人によって違った対応もあったので、勉強になりました。」とあった。Cのみの枠内は課題解決には至らなかった。

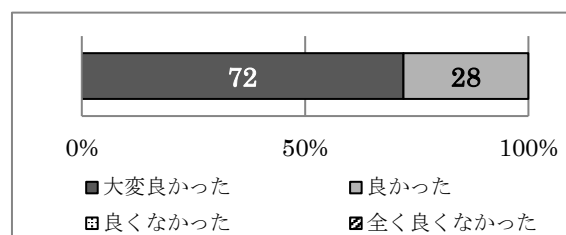


図14 他者との意見共有による理解度

表4 各グループのセリフの割合と分類

	㊦グループ	㊧グループ	㊨グループ	㊩グループ	㊪グループ	㊫グループ	㊬グループ	㊭グループ	㊮グループ	㊯グループ
4か月	AAAA	AAAA	AAAA	AAAA	AAAA	BBBB	BBBB	BBBB	㊮ABBB	㊯CCC
2歳児	AAAA	AAAA	AAAA	BBBB	BBBB	BBBB	BBBB	BBBB	BBBBB	CCC無
4歳児	AAAA	AAAA	AAAA	㊮ABB	㊮ABB	BBBB	BBB無	BBBB	㊮BBBB	㊯BCC
6歳児	AAAA	AAAA	㊮BB無	ABBB	BBBB	BBBB	BBB無	㊮BC無	㊮BBB無	㊯CC無
割合	A:100 % B: 0 % C: 0 %	A:100 % B: 0 % C: 0 %	A: 87 % B: 13 % C: 0 %	A: 44 % B: 56 % C: 0 %	A: 38 % B: 62 % C: 0 %	A: 0 % B:100 % C: 0 %	A: 0 % B: 100 % C: 0 %	A: 0 % B: 94 % C: 6 %	A: 16 % B: 74 % C: 10 %	A: 0 % B: 29 % C: 71 %

③ ロールプレイングの実践効果

ロールプレイングの実践については、グループ協議中に机間巡視を行い、Aと判断された工夫された記述内容グループから選出し発表の指示を行い、全員がAの工夫された記述内容を共有した。

全員がAの工夫された記述内容をロールプレイングを通して共有することで、全員の思考力も高まり、事後アンケート結果からも「他者との意見共有による理解度」で全体の理解度が良かったと示されている。

の親のかかわり方の理解度」（図15）でも全員が理解できたと回答している。「全体発表で他者のセリフを聴いて感じたこと」（表5）について、「他のグループのロールプレイングを通し意見交換することで色々な考え方に触れることができ良い経験になった。」「実際にロールプレイングを聴いて書いた内容だけでは分からない口調の優しさや声のトーンの変化で、子どもとのかかわり方について理解しやすかった。」との感想があった。ロールプレイング

では、記述だけでは分かりづらい部分を演じることで理解の深まりが示されていた。

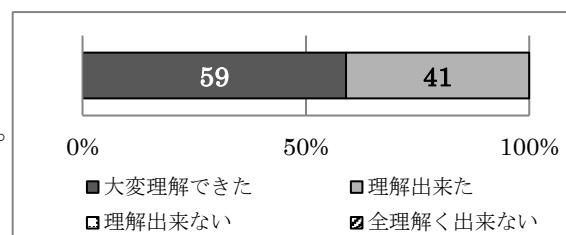


図15 ロールプレイングから親のかかわり方の理解度

表5 全体発表で他者のセリフを聴いて感じたこと

- 他のグループとロールプレイングを通して意見交換することで、色々な考え方に触れることができ良い経験になった。また、実際に演じることで考えるだけでは得られない言葉の伝わりなど深く感じることも出来たと思う。
- 実際にロールプレイングをしてみて、セリフを言うことで書いただけでは分からない、口調のやさしさや声のトーンの変化でかかわり方について理解しやすかった。
- ロールプレイングをすることで実際のイメージができて、また、自分とは違った意見がたくさん聞ける雰囲気が良かった。

(2) 授業での生徒の行動を分析

付箋紙を使った、セリフを考える行動では、付箋紙の解答数が157枚、無解答7枚と解答率が95%と積極的な態度で臨んでいた。シナリオ作成では10グループ全員が7分間でシナリオを仕上げる事が出来た。また、指示されたシナリオの配役にはなかった、父親を登場させ、家族全員で子育て問題にかかわって、課題解決に向けたグループ協議が出来ていた。ロールプレイングでは、演じる

側全員が自信を持って演じ、聴く側からは、大きな拍手と歓声が上がり授業が盛り上がった。これは、演じる側と聴く側の相互の学び合いを促進させるものであった。感想の中でも「模擬的家族で自分の気持ちを伝え理解してもらえて良かった」「自分たちのシナリオを皆に伝えられてよかった」と達成感も窺えた。生徒一人ひとりがそれぞれの異なる経験・知識・意見などをもっていることを尊重し、それを引き出し、対話を生み出される場面であった。これまでの受動的授業だけでは、生徒が授業内容を他人ごととして聞き、頭だけで理解する状況に比べ、能動的授業から「自分ごととして考える機会」「聞いてもらえることで受け入れられた受容の体験」を演じることで理解が深まり、課題を解決する能力の育成ができたと考える。

(3) 事前・事後アンケートで意識の変容を分析。(表6・7)

「子どもを生み育てる事とは」については、事前アンケートでは「子孫を残すため」や「まだよくわからない」の回答があったが、事後では「家族の絆を深める」「人としても成長する」など、さらに「自分を育ててくれた親への感謝の気持ち」も加わり、その気持ちを自分の子供にも引き継ぎたいという、「命を受け継ぐ」だけの気持ちから、親から大切に育てられたことを自分の子育てに引き継いでいきたいという回答がでていた。今回の学習で子育てについて一層の理解が得られたと思われる。子育てのイメージに関しても発達段階に応じた親のかかわり方に関する内容が出されていることから子育ての意義を理解されたと思われる。

表6 子どもを生み育てることへの変容

	事前アンケート	事後アンケート
相手を思う気持ち	・社会に出て生活ができるようにする ・将来を楽しんでもらうため ・立派な大人にするため	・自立させる。 ・子どもに幸せになって欲しいから。 ・より豊かな生活を子どもに送って欲しい。
自分への気持ち	・自分の存在した証 ・自分の人生を振り返って良い子を育てたい	・人生の良い経験になり楽しい充実した生活にする。 ・人として成長する。 ・自分も成長するため。 ・命の大切さを学び、親と子の他では体験できない難しい関係に挑戦し人として成長するため。
その他	・命を受け継ぐ ・子孫を残す ・まだよくわからない	・家族の絆を深める。 ・自分を育ててくれた両親とまたその両親達の素晴らしさ大切に気づき、自分も子どもの手本となるような親になりこの素晴らしさ大切さを伝える。 ・今後の日本を担う人間の育成。 ・幸せな家庭を築くため。

表7 子育てのイメージについて

	事前アンケート	事後アンケート
「苦」のイメージ	大変そう・手がかかる・夜泣きで夜寝れないから大変そう・言うことを聞かず大変そう	大変・疲れそう・乳児期は手がかかる時期・子どもに合わせた子育ては大変。
「喜」のイメージ	可愛い	可愛い・成長がみられてうれしい・少し楽になる・協調性を楽しむ・楽しく子どもと接するようにする
発達段階に応じた親のかかわり方	世話する	言葉で教える・自我を受け止める・愛情を与える・ほめる・自主性やしつけを身に付ける・一緒に遊ぶ・教育する

V 成果と課題

1 成果

- (1) 多様な子育て場面から問題解決に向けたグループ協議とシナリオ作成を行うことで知識や理解を深めることができた。
- (2) ロールプレイングを通して、他者の意見を共有し親のかかわり方について理解を深めることができた。

2 課題

- (1) 多様な子育て場面において、偏った内容にならず幅広い場面を考える必要である。
- (2) 家庭基礎（2単位）の内容で、体験的な学習を取り入れることが厳しく、限られた時間内での指導の工夫が必要である。
- (3) 生徒の成長が見られるような、事前・事後の評価項目の検討が必要である。

〈参考文献〉

- 向後礼子・山本智子 2014 『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック—子どもの育ちを支える—』
明橋大二・太田知子(イラスト) 2011 『子育てハッピーアドバイス 大好き！が伝わる ほめ方・叱り方』 2
明橋大二・太田知子(イラスト) 2010 『子育てハッピーアドバイス 大好き！が伝わる ほめ方・叱り方』
文部科学省 2010『高等学校学習指導要領解説 家庭編 平成22年5月』
レイモンドJ. コルシニ (著者) 2004 『心理療法に生かす ロールプレイイング・マニュアル』

〈参考URL〉

- 文部科学省 2009 「参考資料2 各発達段階における子どもの成育をめぐる課題等について（参考メモ）[改訂]」 最終
閲覧 2017 年 2 月
文部科学省 2009 「3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 最終閲覧 2017 年 3 月
特定非営利活動法人 開発教育協会/DEAR
<<http://www.dear.or.jp/activity/index.html>> 最終閲覧 2017 年 3 月
特定非営利活動法人 開発教育協会/DEAR
<<http://www.dear.or.jp/activity/index2.html>> 最終閲覧 2017 年 3 月
特定非営利活動法人 開発教育協会/DEAR
<<http://www.dear.or.jp/activity/menu07.html>> 最終閲覧 2017 年 3 月